

福 事 研

平成26年(2014年)3月20日発行

第 16 回 福事研研究大会

平成 25 年 12 月 13 日(金)、福岡市の都久志会館大ホールをメイン会場に、第 16 回福事研研究大会を開催しました。今年度は「子どもの豊かな育ちを支援する学校事務」を大会テーマに掲げ、午前中は九州大学総務部長松浦晃幸氏による記念講演、午後は会場を三つに分け、それぞれのテーマで分科会を開催しました。当日は福岡県教育委員会山本栄司人事管理主事をはじめとする来賓の方々、県外からの参加者(45名)、会員及び県内教育関係者を合わせ569名の参加をいただき盛会のうちに終了しました。また今回の研究大会に対して全事研及び九州各県事研からお祝いのメッセージをいただきました。お礼を申し上げます。

◆ 鬼塚会長挨拶

皆さまおはようございます。本日は第 16 回福事研研究大会にご参加いただきましてありがとうございます。



福事研も発足して 14 年目を迎えることができました。この間、福岡県では「学校事務の共同実施」が導入され、市町村・教育事務所ごとに「共同実施」の推進が図られ、事務の組織化、事務処理の効率化が進められています。一方、「共同実施」を進めていく中で、教育支援として取り組んだ内容が教職員に見えにくいという実態が報告されています。今後は教育行政機関と連携しながら環境整備を

福岡県小中特別支援学校事務職員研究会

事務局 柳川市立大和中学校

TEL 0944-76-4121

FAX 0944-76-4122

発行人 鬼塚 信也

充実させ学校事務の「見える化」を進めていく必要があります。

急激な社会の変化に対応するため様々な教育施策が打ち出される中、学校事務職員が今後の学校経営にどのように関わっていくべきか、福事研として一定の方向性を打ち出す必要があると考え、昨年度末に「福岡県学校事務長期ビジョン検討委員会」を立ち上げ協議を進めているところです。本年度中には第 1 回目の提案をさせていただき、たたき台となるビジョンを皆さまに示したいと考えています。

平成 27 年度には全事研熊本大会が開催されます。9 月に開催された「九州各県事務研究会役員研修会」において、九州ブロックが一丸となって熊本大会に向けた取り組みを進めていくことが確認されました。私たち福事研も九州ブロックの一員として分科会での発表を行います。会員の皆さまの協力と積極的な参加をお願いします。

◆ 山本人事管理主事(県教委)

政府は第 2 期教育振興基本計画を本年 6 月に閣議決定しました。これは教育再生の実現をめざし、教育に関する総合計画として、改正教育基本法に基づき策定されるものです。この新しい教育振興基本計画では自立・協働・創造の三つの理念を掲げ、そしてこの理念の実現に向けた生涯学習社会の構築をめざし、今後 5 年間に取り組む様々な具体的な方策が示されています。学校と地域が組織的に連携し協働する体制の構築など、学校運営の改革に言及されています。社会が人を育み、人が社会をつくる。好循環で活力あるコミュニティ形成のために学校の果たす役割は大きく、地域コミュニティの拠点として機能的な働きが期待されています。このような地域とともにある学校づくりに必要となる学校マネジメント力の強化のためには、学校自体

の組織改革が重要なポイントであり、そのための基盤として事務機能の強化が重要な要素です。学校事務職員が主体的に学校経営に参画し、学校事務職員による効率的な教育活動支援が行われることが、学校組織の機能化へとつながり学校組織改革の土台を形成します。県教育委員会は、現在推進している学校事務の共同実施を始め、事務職員や市町村教育委員会の協力のもと、今後も事務機能強化に取り組みたいと考えています。

＜出席いただいたご来賓＞

福岡県教育庁教育企画部教職員課
人事管理主事 山本 栄司 様

福岡県中学校校長会幹事長
篠栗町立篠栗北中学校
校長 小池 努 様

福岡県小学校校長会副幹事長
福岡市立春吉小学校
校長 大城 友記 様

日本教育公務員弘済会福岡支部
常任幹事 亀岡 靖 様

福岡県教職員互助会
専務理事 毛利 真郷 様

地域の協力・家庭の協力があれば、学校の課題である子どもの学力を上げることができます。大人同士が地域の子ども達をどう育てるか、どう良くしていこうかということをお互いに話し合ったとき、学校がこういうことをすれば、地域がこういうことをすれば、もっと子どもは良くなるのではないかと。そのために我々大人は何をすべきか。お金はないけれど、こういうことだったらできる。コミュニティスクールは、本当にいろいろな成果をもたらします。教職員が子どもと向き合える時間が増えたり、いじめや不登校・校内暴力などの生徒指導の課題が解決したり、子どもの学力が上がる。また教職員が子どもと向き合う時間が増えるという成果が少なからず出てきます。また地域と長い時間をかけて取り組みを成熟化させていけばいくほど成果が出てきます。



事務職員の役割は、例えば、コミュニティスクールの中で、地域とのつながり、連携を保つ窓口、あるいはコーディネーターなどです。地域と連携を図る際には、ぜひ学校事務職員がその中核になって取り組んでもらいたいと思います。

記念講演

「学校運営における事務職員の役割」

九州大学総務部長 松浦 晃幸氏



地域の力を学校現場に取り入れながら、子どもは成長し、教職員も成長する。また地域の皆さんも成長する。最終的に「よりよいまちづくり」につながるというのがコミュニティスクールです。

＜アンケートより＞

- 話し方が穏やかでとても聞きやすかった。我々学校事務職員の仕事内容や悩みを理解していただいていることがとてもうれしかった。
- コミュニティスクールの情報が多く興味がわいた。学校の権限拡大時の事務職員の役割をもう少し伺いたかった。
- 学校の存在意義やコミュニティスクールについてよくわかった。よければその中で事務職員がどうあるべきかということも、もっとお話してもらいたかった。
- コミュニティスクールについての話題が興味深かった。学校や地域がよりよくなっていくために、事務職員として何ができるのか考えるきっかけになった。
- 地域社会と学校の関わり方がとても大切なことであり、コミュニティスクールはそのための有効な手段ということが改めて確認できた。

◆ 第1分科会

第1分科会では、昨年に引き続き「伝えよう、広げよう、あなたのアイデア」のテーマで8名（組）の方からショープレゼンテーションがありました。



幅広い年齢層の発表者から、実務的なものから理論的なものと多岐にわたる様々な主題で発表があり、感想には、「時間が足りなかった。」「たくさん刺激を受けた。」「堂々とした発表に感心した。」といったものが多くみられました。



会場はクリスタルビルでしたが、大会の時間設定や会場の間取りが昨年より工夫されており大きな問題なく進行できました。



<アンケートより>

- プレゼンのやり方も色々あり、マニュアル人間としてはO A機器を使いこなしている方に対して“すごい。”の一言でした。
- 同じ事務職員の方が色々な取組を実践されていて、前へ進める気合が入りました。
- 内容は大変すばらしかった。ただ、時間配分はきちんとしてほしい。発表毎の時間が違うといけません。
- ベテランの方から若手の方まで様々な方の取組、実践例を聞くことができ刺激をもらった。
- 発表者が事務職員のことを考えていて大変良かった。またプレゼンは、すべての人が上手だった。

◆ 第2分科会

第2分科会は、本研究大会としてはじめて、シンポジウム形式で行われました。はじめに、研究特別員の武原さんより「大野城市における共同実施を活用した教育活動支援策の紹介」の実践報告として、修学旅行等の校外活動へ事務職員が企画の段階からかかわっていく、実際的な流れが紹介され、アンケートでも参考になったという声が多かったようです。



その後、「学校事務職員の強みとは」と題して、大竹晋吾先生（福教大）吉備昌彦さん（嘉麻市）を交えて、それぞれの立場・取り組みから学校事務職員のあり方について語り合いました。一つには共同実施として何ができるのか。もう一つは、事務職員としての視点からの学校づくりへの参画です。中でも吉備さんが語られた、子どもを中心に据えたトイレ改修に関わった取り組みなどは具体的でもあり、参加者から「学校の中で何ができるのか考えてみたい」と好意的に受け止められたようです。

共同実施でできること、事務職員でできることそれぞれの話が並行して進んでゆき、お互いの意見がクロスして、議論が盛り上がるころまでは行きませんが、その

後の参加者を交えての意見交流で、予算要望・執行を通じた経営参画のあり方、教職員とのコミュニケーションの重要性、子どもからの視点を生かす取り組みなどの意見が出て、深めることができました。



前春日市教育部長の工藤さんにも発言していただき、「共同実施によって教育委員会と連携する事務職員の横の広がりができたこと、今、共同実施で大事なものは、協働して教育支援に取り組んでいける事務職員をいかに育成していくか、先を急がず足元を固めることだ」との意見は多くの参加者の共感を得ていました。

<アンケートより>

- 事務職員は1人配置のところが多く、こういう場でいろいろ意見や考えを聞いたのは、とても良かった。
- 日々の業務で、もう少し積極的に教育活動へ参画していく必要を痛感した。特に吉備さんのお話は大変すばらしかった。
- 先輩方の話をきいて、どのような思いをもって、働いているかがわかって良かった。自分の理想を作っていく。
- 事務職員の強みは、学校という現場で働けるということだと思う。経営参画はなかなか難しいが、まずは子ども・教員・地域とのコミュニケーションを大切にしていこうと思った。
- シンポジウムは論点がボケて分かりにくかった。春日市の工藤さんの話が一番納得できた。

◆ 第3分科会



第3分科会は6月の支部研修担当者研修会に引き続き、北九州市立大学キャリアセンター准教授見館好隆先生を講師に迎え、「学校事務職員の専門性を考える」をテーマに研修を進めました。初めに本講演の目的、最近の公務員の動向や学校事務職員の弱点について話されました。次

に「学校事務職員にしかできない仕事とは?」のテーマで、少人数による1回目のグループワークをおこないました。続いて、福岡市の学校間連携の取組、春日市からは共同実施での教育支援の取組について実践報告があり、両市の実践報告等を素材に2回目のグループワークをおこないました。

に「学校事務職員にしかできない仕事とは?」のテーマで、少人数による1回目のグループワークをおこないました。続いて、福岡市の学校間連携の取組、春日市からは共同実施での教育支援の取組について実践報告があり、両市の実践報告等を素材に2回目のグループワークをおこないました。



休憩後、ワールドカフェ方式（メンバーの組み合わせを変えながら少人数のグループで話し合う）で「これからのプロの学校事務職員になるには何をしたらよいか」について意見を出し合いました。このような研修を初めて経験した参加者もいたようですが、アンケートの回答を見ると好評でしたので、来年度の研究大会も同じような形で分科会を計画したいと考えています。

<アンケートより>

- 他の地域の事務職員と言葉を交わす機会があるのは、とても良いことだと思う。ぜひ来年も同様の分科会をお願いしたい。
- ワールドカフェ方式の討議が楽しかった。民間のやり方をいろいろ聞いたのは新鮮で良かった。ありがとうございました。
- 経験年数が浅いので、色々な方から色々な話を聞かせてもらって、とてもためになったし、楽しかった。企業の話とか聞かせて頂いて、知らないことばかりで本当に学べるが多かった。ありがとうございました。
- ワークショップは最初どうなるか不安な面もあったが、同じ職種で有意義な情報交換ができた。
- プロの学校事務職員になるためにはどうすればよいかという議題で、色々な方と議論を深めることができ、とても有意義な時間となった。参加して本当に良かった。こういう参加型の研修で、自分の考えを出していくことは本当に大切だと思う。

平成 25 年度 全事研セミナー参加報告

古賀市立古賀東中学校
事務主査 石川健一郎



平成 26 年 2 月 14 日（金）
神奈川県・川崎市教育文化会館
にて開催された全事研セミナー
に参加させて頂きました。
セミナー当日、関東地方は記録
的な大雪に見舞われましたが、
そんな中でも全国より大勢の

参加者が集い、会場は熱気に溢れていました。研修内容も
大変充実しておりましたので、ここに報告致します。

◆講義Ⅰ 文部科学省行政説明

文部科学省初等中等教育局財務課 課長 池田貴城氏

まず、現在はコミュニティスクールの推進など、地域の
力が重視されているが、それでも学校教育の中心となるの
はやはり教育のプロである教員、そしてマネジメントのプロ
である事務職員であること、そして、義務制の事務職員
は基本的に一人職であるから、専門性を磨くと同時にオー
ルラウンドであることが求められる、といった話がありま
した。

それから、教育委員会制度改革や、平成 26 年度文部科
学関係予算の重点項目等についての説明がありましたが、
予算面ではやはり少子高齢化時代への対応や、道徳教育、
キャリア教育、グローバルな人材の育成などに力を入れて
いる印象を受けました。

社会情勢の変化に応じて、予算を含めた政策も変化し、
学校教育も変化していきますから、今後も事務職員として
柔軟に対応し、常に力とアイデアを発揮できるようにした
いと思いました。

◆講義Ⅱ

「地域とともにある学校づくりと人材育成」

一般財団法人 公共経営研究機構理事 関山祐介氏

放送メディアへの出演等もこなす関山氏による、ユーモ
アを交えながらの講演で、肩肘張らずに聞くことができました。

話の中では、今の社会が抱える問題点についていくつか
の指摘がなされましたが、特に現代は大人達が自分のこと
で精いっぱい、社会全体が子どものことを見ていない、
という指摘はとてつもない鋭いものでした。氏は日本GNH学会
での仕事を通じてブータンとの関わりを持っておられますが、
貧しいながらも希望に溢れるブータンの子どもたちを見てい
ると、まるで昔の日本を見ているようだとの言葉には、やはり
日本の社会や教育は大切な何かを忘れてしまっているのでは、
という思いを持ちました。

また、事務職員個々が果たしてどれだけの努力をしているか、
という問い掛けもあり、これには思わず我が身を恥じてしま
いました。

まとめの部分では、我々がこれから子ども達へとバトン
タッチをしていくうえで、初等中等教育はとても大事である
との言葉がありました。自分もまさにその場に携わる事務職員
として、資質の向上に努めつつ、少しでも貢献できることを
探していきたいと思いました。

◆講義Ⅲ

「学校組織を活性化する人材育成の在り方」

国立大学法人 鳴門教育大学

大学院学校教育研究科 教授 久我直人氏

教諭として十数年の現場経験を持ち、また教育委員会勤務
時代には共同実施にも関わって来られた久我氏による

講演は、実例やデータを交えた、具体性がある理解しやすい内容でした。

「つなぐ」をキーワードとした今回の話では、つなぐ＝マネジメント＝人材育成であるという論旨のもと、学校の課題には組織で対応する必要がある、組織マネジメントの導入で教職員をつなぎ、また教育目標と学校運営をつなぐことができると説かれました。

そして、学校の組織マネジメントを支える学校事務マネジメントの担い手として、共同実施の存在が挙げられました。共同実施の価値としては、属人的な知識を組織で共有すればそれが資源となること、職務の高度化・困難化に伴い、一人で背負わず組織で対応することが必要であること、などを挙げられました。

無理せず、長期計画で共同実施の展開を考えるべきとの言葉には少し気持ちが楽になりましたが、やはりこれからは共同実施の存在をアピールし、若手・中堅・ベテランいずれにとっても意味のある集まりとなるよう、考えていかなければならないと思いました。

この他、第46回全国研究大会（静岡大会）実行委員長富坂雅秀氏による静岡大会の紹介及びPR映像の上映、全事研副会長の鳥本安博氏による全事研活動報告が行われました。

平成26年度よりスタートする全事研の第8次研究中期計画に基づき、各支部でも更に積極的な取り組みが求められていると思います。現在、私は福岡県学校事務の長期ビジョン検討委員を仰せつかっております。今回学んだことを、長期ビジョンの中身の充実にも是非活かしていきたいと考えています。

経過報告及び今後の予定

H 25	10	4	(金)	第3回研究推進委員会(理事会)
H 25	11	8	(金)	第4回研究推進委員会(中止)
H 25	12	5	(木)	第5回研究推進委員会(理事会)
H 25	12	13	(金)	第1回役員選考委員会
H 25	12	13	(金)	第16回研究大会
H 26	1	25	(土)	第2回役員選考委員会
H 26	1	25	(土)	第6回研究推進委員会(役員会)
H 26	2	6	(木)	第7回研究推進委員会(理事会)
H 26	2	14	(金)	全事研セミナー
H 26	3	5	(水)	第2回拡大研究推進委(評議員会) (中止)
H 26	4	5	(土)	第3回役員選考委員会
H 26	4	19	(土)	幹事会
H 26	4	19	(土)	第1回研究推進委員会(理事会)
H 26	5	9	(金)	第2回研究推進委員会(理事会)
H 26	5	22	(木)	第1回拡大研究推進委員会 (支部代表者会)
H 26	6	13	(金)	支部研修担当者研修会 (第16回総会)

1月25日の役員会や2月6日の理事会では、会則改正やホームページの運用等について話し合いました。会則改正の内容は、専門部及び業務分担を現状に沿った形にすることや、支部統合（八女市と八女郡の統合）についてです。会議では原案を一部修正して総会に提案することが確認されました。

ホームページの運用については「福事研ホームページに関するガイドライン」及び「掲載依頼に関するガイドライン」についてです。

これらの詳細は6月の福事研総会の資料に掲載します。ぜひご覧ください。

◇今回の会報は昨年12月の研究大会の記事を中心に掲載しました。◇皆さまからのアンケート回答を見ると、受付時の混雑を指摘する声もありましたが、概ね好評だったようです。◇平成26年度の研究大会もご協力お願いします。

◆全事研セミナーは福岡県から21名参加しました。◆石川さんの報告書のように、当日はものすごい積雪でした。◆セミナー終了後、会場から川崎駅まで苦勞して歩いたのを思い出します。◆当日福岡に帰れず空港に泊まった人もいたようです。お疲れ様でした。

■私たち三名の広報部員は今回で退任します。会員の皆さまのご協力に感謝いたします。（三小田・小早川・竹本）